
白い散歩

燿

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

白い散歩

【Nコード】

N9823Y

【作者名】

耀

【あらすじ】

雪の朝

散歩に出掛けた少女の話

（前書き）

テスト作品。見るだけ無駄です。きっと。

その日

私はとても早く目が覚めた。

窓の外はまだ暗くて、

でも何故だか全体的に光っているように見える。

窓を

そつ、と

開けてみると

冷たい空気が入ってきた。

暑すぎる部屋に心地よく、

空には

少ない星が瞬いて。

私は着替えて白いコートを羽織り、

外へ一歩、

踏み出した。

さくっ

ざくっ

私が一歩踏み出す度、
地面が音を立てる。

そこでようやく雪だということに気づいた。

私は視力が低い。

その為気づかなかつたのだと
言い訳を試みる。

吐き出される息が白い。

手に吐きかけると
きらきらとひかりながら
空中を漂っていった。

それとは対照的に

私の手や顔は赤い。
恐らく耳も赤いだろう

私は寒さに強い方で、
防寒具はコートだけだ。

それでもさほど寒さを感じない。

雪だからだろうか。

一面真っ白な
公園に着いた。

私は雪だるまを作り始めた。

手が冷たい。

思わずポケットに手をつ突っ込むと、何かが指先に触れた。

手袋だった。

なんてグッドタイミング！

手袋を嵌めて

雪だるま作りを再開した。

しばらく雪と格闘していると
頭の元となる部分が出来た。

よしよし。

次は体だな。

(後書き)

読んで下さってありがとうございます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9823y/>

白い散歩

2011年11月29日19時51分発行